



Data

監督：堤幸彦

出演：中村勘九郎/松坂桃李/大島優子/加藤雅也/大竹しのぶ/永山絢斗/加藤和樹/高橋光臣/石垣佑磨/駿河太郎/村井良大/荒井敦史/望月歩/青木健/伊武雅刀/佐藤二朗/野添義弘/松平健

👁️👁️ みどころ

真田幸村は天下一の名将！居並ぶ戦国武将の中で“智謀知略天下に並ぶ者なし”。それが定説だが、それは真っ赤な嘘！ところが、猿飛佐助は「オイラの嘘であんたをホンモノの天下一の武将に仕立て上げる」ことに……。そんなバカげた、堤幸彦演出、中村勘九郎主演のお芝居が映画に！

「何が本当で何が嘘？」それを統一テーマにした虚々実々の駆け引きは実に面白い。NHK大河ドラマ『真田丸』と対比すればなおさらだ。

徳川家康の本陣寸前で壮絶な討死をとげた幸村と真田十勇士。炎上する大阪城と共に相果てた豊臣秀頼と淀君。そんな定説に固執せず、あっと驚く、嘘いっぱいのエンタメ巨編を堪能したい。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■NHK大河ドラマ『真田丸』とは全く違う視点から！■

私はNHK大河ドラマ『真田丸』を毎週きちんと観ているが、それは三谷幸喜の演出だけに従来のNHK大河ドラマの荘厳な演出(?)とは全く異質の、エンタメ色あふれる内容になっている。何より特徴的なのは、現代言葉を散りばめたセリフと遊びゴコロ。例えば主役の真田信繁(幸村)(堺雅人)と幼なじみのきり(長澤まさみ)との関係や2人が交わす会話は、伝統的な時代劇ではありえないものだ。9月25日(日)には、幽閉されていた九度山で幸村の父親・昌幸は死んでしまったが、家康は豊臣秀頼が意外にしっかり者に成長していることを知ってしまったから、そろそろ大阪冬の陣と夏の陣に……。そうすると、そろそろ大阪城の南が手薄だとして昌幸が築いた真田丸を舞台にする徳川軍を翻弄する昌幸の大活躍が始まるはずだ。

もともと三谷演出にもかかわらず、『真田丸』では「忍びの者」については寺島進演じる出浦昌相の重厚な演技が光っており、藤井隆演じる幸村の家臣・猿飛佐助の存在感は弱い。もちろん何かと便利に使われ大いに役にたっているようだが、本作の主役として中村勘九郎が演じている猿飛佐助の圧倒的な存在感には到底及ばない。「真田十勇士」の名前は私が小学校に入る前のまだメンコが流行っていた頃は有名だったが、今の子供たちは誰も知らないのでは？しかし、本作に見る猿飛佐助や彼が召集した真田十勇士の豪傑ぶりを見ればすぐに興味を持ち、十勇士の名前を覚えるのでは。

■□■佐助と才蔵の関係は？もう1人の幼なじみは？■□■

言うまでもなく猿飛佐助を演ずる六代目中村勘九郎は2012年12月5日に亡くなった父親・五代目中村勘九郎の長男で、2012年に六代目を襲名した歌舞伎界のサラブレッド。市川染五郎や中村七之助と共演したシネマ歌舞伎『阿弔流為（アテルイ）』（16年）（『シネマルーム38』171頁参照）での演技もさすがだったが、本作でも歌舞伎役者としてのド派手な演技が光っている。そんな「陽の佐助」に対して、あくまで陰に徹しているのが松坂桃李演じる霧隠才蔵だ。

もともと忍者の「出自」なんて当てにならないものだから、脚本家や演出家がどうにでも作ればいいのでその点は気楽。しかし、本作では才蔵は佐助の幼なじみにしてライバル。2人とも久々津壮介（伊武雅刀）を首領とする久々津衆の忍者だったが、佐助は何かどこでかいことをやりたくて抜け忍に、才蔵も忍びの里を抜け山賊の頭領として生きていたが、ある日才蔵は佐助と再会して真田十勇士に加わるという設定だ。なるほど、こりゃエンタメ色たっぷりの面白い設定だが、それだけではいささか常識的。そこで本作では、2人の幼なじみの「くのいち」火垂（大島優子）を登場させ、多少の色恋沙汰の演出も！もちろん、火垂が惚れているのは行き当たりばつりの策士、佐助ではなく、冷静沈着、頭脳明晰なうえ、剣術や忍術にも優れた才蔵だが、才蔵は火垂に対して火垂と同じような恋心をもっているの・・・？そんなサブストーリーもお楽しみに・・・。

■□■本作はアニメ？一瞬そう錯覚したが・・・■□■

本作冒頭、ナレーションと共にスクリーン上に登場するのはアニメ映像。それにもビックリだが、さらにビックリしたのは「天下一の名称」「居並ぶ戦国武将の中で“智謀知略天下に並ぶ者なし””と言われていた真田幸村は実は嘘で、それは見かけだけだったこと。つまり彼は男前な容貌と、奇跡的に起こる幸運の連続によって天下の名将に祭り上げられていただけの、ただの腰抜け男だったらしい。そんな己の実像と虚像のギャップに悩む幸村（加藤雅也）と出会った佐助は、そこで幸村相手に「オイラの嘘で、あんたをホンモノの天下一の武将に仕立て上げてみせようじゃないか」というアイデアがひらめいたらしい。そんな思いつきを行き当たりばつりで実行に移すのが佐助。まず同じ抜け忍の才蔵を仲

間に引き入れると、それに続いて次々と真田十勇士を選抜していったわけだ。

本作では導入部の7分間のアニメでそんなストーリーが要領よく描かれるが、堤幸彦監督がそんな演出にしたのは一体なぜ？それは、もともと舞台上で上演していた『真田十勇士』を堤幸彦監督で映画化するについて、全部実写でやれば前後編の2本になってしまうボリュームだったから。つまり1本の映画に収めるため、やむをえず前半部分をアニメにまとめたらしい。なるほど、一癖も二癖もある男たちを佐助と才蔵が選抜していくストーリーはそれなりに面白いが、本作に観る7分間のアニメで十分理解できるから、それで充分だ。ちなみに、十勇士はもともとは九勇士でスタートしたが、ゴロが悪いので途中で根津甚八（永山絢人）を加入させて十勇士にしたらしい。しかし、そんなゴロ合わせで入れた10人目の甚八がいささか問題児だったことが後に判明するので、そんな意外な展開にも注目！

■□何が本当で何が嘘？それが統一テーマに！■□

舞台『真田十勇士』の脚本を書いたのはマキノノゾミ。そのマキノノゾミは堤幸彦監督の要請に応じて舞台用の脚本を映画用の脚本に書き換えたが、そこではスクリーンに映えるように真田丸のセットや合戦のシーンを書き換えたらしい。それはある意味で当然だが、そもそも「真田幸村は天下の名将というのは嘘で、実は腰抜けだった」というところから出発した本作の統一テーマは、何が本当で何が嘘？NHK大河ドラマ『真田丸』は家康の本陣に向かった幸村が壮絶な討死をとげるところで終わるはずだが、さて本作は？「嘘も方便」とはよく言ったもので、恋愛劇にも嘘はつきもの。それは本作でも、佐助が火垂りに対して「才蔵もお前に惚れていると言っていた」と嘘をつく（？）シーンに登場するが、豊臣v.s徳川の大阪城における攻防戦でも「嘘も方便」がまかり通るの？

ちなみに9月25日に観た『グランド・イリュージョン 見破られたトリック』（16年）のラストの舞台は大晦日のロンドンだったが、そこではフォー・ホースメンがロンドン市民と観客に対して何ともすごいイリュージョン＝嘘を展開していた（『シネマルーム38』276頁参照）。そういえば、私が中学時代にはじめて宝塚の歌劇場で観た歌劇『弓張月』では、源為朝が琉球王になったというストーリーに大興奮したものだ。さらに、源義経は兄の頼朝によって殺されておらず、中国大陸に渡ってチンギス・ハンになったという伝説もあるくらいだから、歴史だって何が本当で何が嘘かわからないのかもしれない。パンフレットによると、そんな発想からマキノノゾミは「『何が本当で何が嘘なのか？』俳優本人たちもわからなくなるくらい膨らませていきました」と書いているから、そんな脚本にもとづく本作をお楽しみに・・・。

■□本作に見る真田丸の攻防はNHK大河ドラマ越え！■□

NHK大河ドラマでは、大阪城に入る幸村が「大阪城の南方面が弱い」と主張して真田

丸を築くシーンは、堺雅人がそれなりの説得力で演じるはず。ところが、本作における幸村は見かけはハンサムで口先は達者だが中身はカラッポというのが本性だから、軍議に出席してもしっかりと自分の意見を述べ、周りを納得させることなどとても無理。そう思っていると、軍議の席に座っている幸村に策を授けるのは、天井裏に潜んだ佐助と才蔵。そして、意思を伝える手段は、昔ながらの糸電話だ。なるほど、それもあり！

もっとも、そんな原始的な手法による意思の伝達に多少の行き違いが生まれるのは止むをえないが、もともと行き当たりばったりが身上の佐助だから、真田丸を幸村が築くことになれば諸大名と接触することによって化けの皮がはがれる可能性が薄くなり、かえって好都合。もっとも、本作に見る真田丸の築き方はそれなりにしっかりしたものだし、徳川の大軍をそこで迎え撃つ戦術もしっかりしたものだから、それに注目。スクリーン上でここまでしっかり演出すれば、NHK大河ドラマがそれなりのお金をかけて真田丸の攻防戦を撮影しても、やはり映画の方が勝っているのでは？

9月26日（日本時間27日午前）に実施されたヒラリー・クリントン v s ドナルド・トランプの第1回テレビ討論の結果は、CNNの調査ではクリントン氏の方が良かったとする人が62%、トランプ氏が27%とされたが、それはマスコミ自体がもともとヒラリーびいきになっているため、よくよく聞いてみると実際は引き分けもしくは多少ヒラリー優位くらいらしい。NHK大河ドラマにおける真田丸での攻防戦はまだ放映されていないが、本作の出来（の良さ）をみれば、私の予想では本作がNHK大河ドラマ越え！

■□■やっとな幸村も本気に！大助も気を持ち直して！■□■

産経新聞は2016年3月28日から「戦後71年、楠木正成考」『公』を忘れた日本人へ」と題して楠木正成の連載を開始したが、これは「公」を忘れた日本人に楠木正成の「忠義」と「仁」を思い出させ、考えさせるためだ。NHK大河ドラマでは幸村は大岡秀吉に対する畏敬の念を持ち、豊臣家に対する恩義に報いるべくその忠誠心を強めていくが、本作では幸村はもともと豊臣家に対して何の恩義もなかったらしい。したがって、幸村が大坂城に入ったのも佐助の勧めに従っただけで、あくまで操り人形にすぎない。大坂城での軍議も前述のとおりだし、真田丸づくりの実務も、真田丸での攻防戦もすべて佐助任せだ。ところが、本作後半では幸村が次第に豊臣秀頼の応援に真剣になっていくので、その理由に注目！

そこでヒントになるのが、大竹しのぶ演じる淀殿がハンサムな幸村を慕って（？）夜中にお忍びでやってくるシーン。幸村は丁重に淀殿の申し出（？）を断ったため、淀殿は女のプライドを傷つけられたようだが、さてそれは本当？それとも嘘？ひょっとして観客の知らないところで、二人は秘かにベッドイン・・・？「大阪夏の陣」では家康から大坂城の堀を埋め立てることを条件として和睦の申し出が出されたのに対し、諸将の猛反対にもかかわらず、淀殿がそれをOKするとすかさず幸村がそれを支持するシーンを見ていると、

アレレ……。しかして案の定「大阪冬の陣」に至るわけだが、そこで幸村はなぜか俄然本気に！つまり、もはや豊臣家に明日はないという局面に至って、それでも家康の首を狙ってこういう戦術で突っ込んでいけばどうかという提案をはじめてするわけだ。

民進党の代表に選ばれた蓮舫氏がやっと台湾国籍を抜いたのは喜ばしいが、9月26日から始まった国会では、反対型から対案型、提案型に切り替えると述べていたにもかかわらず、その変化ぶりは見えない。それに比べれば、本作に見る幸村が提案型に変わったことに大いに感心！さらに、その「策」は佐助と才蔵の目にも上策と見えたから、今こそ真田十勇士の全力を挙げて幸村を支え、命がけで家康の本陣に突っ込まなければ……。ちなみに、今頃になって尊敬していた父親が実は腰抜けだったと幸村自身から告白されて落ち込んでいた長男・真田大助（望月歩）も、今や父親が180度変容したことを知り勇氣百倍。気を取り直して父親と共に家康陣へゴー！

■□■『後妻業の女』に続く大竹しのぶの大嘘に注目！■□■

黒川博行原作の『後妻業』を映画化した『後妻業の女』（16年）（『シネマルーム38』104頁参照）では、大竹しのぶが絶妙の演技を見せていた。こんな女に騙されたら死んだ（殺された？）夫の子供はたまったものではないが、死んでしまった夫は男として本望かも……。もっとも、それはその映画をエンタメ作品として観ているからで、本作で大竹しのぶ演じる淀殿が徳川vs豊臣の壮絶な闘いの中でまさかこんな大嘘をついていようとは……。ちなみに、豊臣秀頼がホントに秀吉の子供だったのかどうかについては、それを疑問視する声がある。秀頼のタネが大野治長だったというのが有力説の1つだが、さてその真偽は？

他方、世間には秀頼の父親が誰かハッキリしなくても、淀殿自身は秀頼は自分が産んだ子供であることはわかっているから、その愛は絶対。したがって、淀殿は母親として自分の息子を守る覚悟はしっかりしているうえ、幸村への愛もずっと持ち続けていたようだから、そんな年増女の策略が本作のクライマックスではあつという展開を見せるので、それに注目！

■□■嘘もみんなでつけば本当に！■□■

「赤信号みんなで渡れば恐くない。」私はこれを正しいと信じているが、同じように「嘘もみんなでつけば本当に！」も正しいのでは……。私は『グランド・イリュージョン 見破られたトリック』ラストのクライマックスを見てそう思ったし、本作ラストのクライマックスを見てもそう思った。そして、多分それはみなさんも同じでは……。大阪冬の陣のラストは、炎上する大阪城の中から秀頼の妻・千姫だけは無事に脱出し、秀頼と淀殿は自害して果てるというのが歴史上の定説だ。しかして、本作でも家康本陣の寸前で壮絶な討死をとげた幸村を残して佐助と才蔵は大阪城内に戻り、最後の任務を果たそうとしてい

た。それは幸村から命じられた「秀頼と淀殿を助けよ」という命令だが、そんなことが可能なの？

佐助と才蔵は城内で秀頼と淀殿が隠れている部屋で再会したが、そこに久々津衆が乱入してきたから、もはやこれまで……。ところが、そこに佐助の嘘によって才蔵の恋心に気付いた火垂が才蔵を助けるために乱入してきたから、久々津壮介の親心が動いたのは仕方ない。どうせ、この炎上する大阪城と共に佐助も才蔵もそして秀頼も淀殿も全員死んでしまうはず。そう確信した久々津壮介はその場を後にしたが、その直後スクリーン上にはあっと驚く風景が……。『グランド・イリュージョン 見破られたトリック』のクライマックスでもあっと驚かされたが、それは本作も同じだ。なるほど佐助は人を騙すのがうまい。何が本当で何が嘘？そんな本作の統一テーマがクライマックスのスクリーン上で見事に展開されるので、それに注目！

そしてエンドロールが流れる中、分割画面ながら大阪冬の陣終了後の幸村、大助親子と真田十勇士のその後の「生きザマ」が示されるから、それにも注目！さあ、何が本当で何が嘘？あなたはどうか考える？

2016（平成28）年10月5日記